

《担当者名》講師 / 櫻田 渉  
 教授 / 平野 剛      講師 / 中山 章      講師 / 早坂 敬明

## 【概要】

近年、医療の高度化、多様化に伴い医療における薬剤師の役割が大きく変化し、薬剤師業務も多様化してきている。しかし、調剤業務（正確な調剤）が薬剤師業務の根幹であることは何ら変わらない。本講義では、処方箋に基づいた調剤業務を安全で適切に遂行出来るようになるために、基本的な薬学的管理、調剤業務の基礎を修得する。

## 【学修目標】

医療チームの一員として調剤を正確に実施できるようになるために、処方箋授受から服薬指導までの流れに関連する基本的知識、技能、態度を修得する。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	薬剤師の業務と役割（１） 薬剤師の業務と役割（２） 教科書：上（１） p9～16, 41～44, 102 教科書：上（２） p2～8, 26～40	医薬分業の仕組みと意義を説明できる。 地域薬局、かかりつけ薬局の役割や使命を説明できる。 後発医薬品の使用推進の意義について説明できる。 病院における薬剤師業務全体の流れを概説できる。 チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。 多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。  《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 A-(1)- -3、A-(4)-1～5 B-(3)- -3、B-(4)- -1～3 F-(1)- -1～5、F-(2)- -4、F-(4)- -1～3	早坂 敬明
2	医薬品の定義と管理 教科書：上 p111～135	医薬品の種類・分類について説明できる。 劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚醒剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。  《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 F-(2)- -18、F-(2)- -3,12	中山 章
3	処方箋の記載事項 薬袋の記載事項 教科書：下 p2～4, 12～15, 28～29, 39～46, 53～61	処方箋の法的位置づけと機能について説明できる。 処方箋の様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。 薬袋、薬札の必要性を法的根拠に基づいて説明できる。 薬袋、薬札に記載すべき事項を列挙できる。  《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 F-(2)- -1、F-(2)- -3,7,9、F-(2)- -1	櫻田 渉
4	計数調剤（内用剤、外用剤） 教科書：下 p14～15, 53～71, 110～112, p119～122	処方箋に従って、取り揃えるべき量を計算できる。  《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 F-(2)- -3,11,13、F-(2)- -6	櫻田 渉
5	計量調剤（散剤） 教科書：下 p72～85	代表的な散剤について説明できる。 処方箋に従って、散剤の調剤をシミュレートできる。  《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》	櫻田 渉

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		F-(2)- -5,11	
6	計量調剤（内用液剤・軟膏剤） 教科書：下 p86～100,p113～119	患者に適した剤形を選択できる。 処方箋に従って、計量すべき分量を計算できる。  《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 F-(2)- -3,5,11	櫻田 渉
7	注射剤調剤 教科書：下 p139～204	注射剤処方箋の記載事項について説明できる。 皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。 基本的な無菌操作の原理を説明できる。  《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 F-(2)- -8、F-(2)- -5,6,14、F-(3)- -4	平野 剛
8	処方箋鑑査・調剤薬鑑査・疑義照会 教科書：下 p38～52,p123～135	処方箋の鑑査の意義、その必要性と注意点について説明できる。 処方箋を鑑査し、不適切な処方箋について、その理由が説明できる。 処方箋に基づき調剤された薬剤の鑑査ができる。 処方箋等に基づき疑義照会ができる。  《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 F-(2)- -1、F-(2)- -4～6,11、F-(2)- -8,19	櫻田 渉

#### 【授業実施形態】

##### 面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

#### 【評価方法】

期末定期試験（90％）、授業への取り組み態度（10％）により評価する。

フィードバックは個別に対応する。

#### 【教科書】

「新ビジュアル薬剤師実務シリーズ 薬剤師業務の基本 上 第3版」 上村直樹、平井みどり 羊土社

「新ビジュアル薬剤師実務シリーズ 調剤業務の基本 下 第3版」 上村直樹、平井みどり 羊土社

#### 【学修の準備】

当日の授業範囲を予習し、あらかじめ疑問点等を把握しておくこと。（50分）

教科書、配布プリント、授業ノートを活用して、復習して理解を高めること。（50分）

・3～5回の授業では、予習として講義範囲について教科書を読み、該当するSB0のweb問題を解くこと（40分）。

・3～5回の授業では、復習として正解しなかったweb問題について、教科書、配布プリント等を利用してまとめておくこと（60分）。

#### 【関連するモデルコアカリキュラムの到達目標】

##### A 基本事項

(1) 薬剤師の使命 【 医療人として】

(4) 多職種連携協働とチーム医療

##### B 薬学と社会

(3) 社会保障制度と医療経済 【 医薬品と医療の経済性】

(4) 地域における薬局と薬剤師 【 地域における薬局の役割】

##### F 薬学臨床

(1) 薬学臨床の基礎 【 臨床実習の基礎】

(2) 処方箋に基づく調剤 【 法令・規則等の理解と遵守】【 処方箋と疑義照会】【 処方箋に基づく医薬品の調製】

【 患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】【 医薬品の供給と管理】

(3) 薬物療法の実践 【 処方設計と薬物療法の実践（処方設計と提案）】

(4) チーム医療への参画 【 医療機関におけるチーム医療】

**【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】**

1. 医療人として求められる高い倫理観を持ち、法令を理解し、他者を思いやる豊かな人間性を有する。
2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。
3. 多職種が連携する医療チームに積極的に参画し、地域のおよび国際的視野を持つ薬剤師としてふさわしい情報収集・評価・提供能力を有する。

**【実務経験】**

平野 剛(薬剤師)、中山 章(薬剤師)、櫻田 渉(薬剤師)、早坂 敬明(薬剤師)

**【実務経験を活かした教育内容】**

教科担当の4名は、病院・薬局の実務経験者である。臨床における病院業務、薬局業務の経験を活かし、具体的な実務薬学について講義をする。